公益社団法人 長井教育会

内容

1	表　紙　　木を学び　建築を造る！　山形工科短期大学校
2	巻頭言　　理事長　蒲生　直樹
3	令和３年度事業報告
4	長井教育会賞受賞者
5	奨学生の概要
6	学校紹介　山形工科短期大学校　学校長　小幡　知之
7	会員名簿
１５	お知らせ
１６	入会のお願い

孫田秀春博士の「愛郷の碑」に寄せて

公益社団法人長井教育会
理事長　蒲生　直樹

長井市の名誉市民にして西根出身の法学者孫田秀春は、ふるさとの風景を『古事記』や『万葉集』の国誉めの歌のように讃えて「西山打鼓東山舞（西山鼓を打ち東山舞う）」の句を残しました。孫田はこの句の意味する風景について、次のように言っています。「西山鼓を打ち、東山舞う。御覧のように西山は山肌荒くて極めて男性的で、東山はなだらかでいかにも女性的に見える。西山（の）鼓に合わせて、東山が舞っている。舞を舞っている意味で、長井の平野はそういう芸術的詩情に満ちたパラダイスで楽園のように思う。」

ふるさとの牧歌的な風景を愛し、ふるさとへの愛着を生涯語り続けた孫田は、昭和四十年十月、私費を投じて当時の旧西根地区公民館の傍に「愛郷の碑」を建立しました。その碑文には、「古里を愛する者　みなここに集い　相ともに我が郷土を護ろう　おけさ勘三郎御夫妻の鴻業に感謝しつつ　秀春誌」とあります。秀春にとってのふるさとは、「西山打鼓」と詠んだ美しい風景に恵まれた地であるとともに、水不足に苦しむ村人のために己が身を削って水路、「おけさ堀」を拓いたおけさ勘三郎の言い伝えが残る地であり、その意味でも美しくもうるわしき風土なのです。

もちろん、孫田の生まれた西山山麓では、しばしば西山の入会権や水利権などを巡って集落同士の争う歴史があったことを、孫田は身近に見聞きしていたはずであります。しかし、そのような負の歴史が時にあったにせよ、自分が生まれ育ったふるさとは我が身を犠牲にしても世のため人のために生きた人を産んだ地であるとともに、その教えを子から孫へと語り継いできた地であります。おけさ堀の伝承は法学の道に進んだ孫田にとって終生誇るべきものとなりました。殊にこの頃の孫田には、個人の権利を声高に主張するばかりで他人の権利には思いの及ばない戦後日本の風潮への、法学者としての強い危機感がありました。愛郷の碑の建立には、高度経済成長の波に飲み込まれ、拠って立つべき基盤としての「ふるさと」を失いつつある日本社会への警鐘の意味も込められていたのだろうと思います。

ともあれ、孫田にとって愛すべき、そして護り、後世に伝えるべきは、この地に受け継がれてきた、他人のために生きる心を尊ぶ風土としてのふるさとなのであってみれば、「この地が育む平和共存の心こそは倫理の崩壊が危惧される二十一世紀の世界への指針となる」と語った、同じく本市の名誉市民、彫刻家長沼孝三の「長井の心」とも重なってまいります。そしてそれはまた、ふるさとの未来を案じ、ふるさとの有為な若者を応援しようと本会に集う皆様の思いとも重なるように思います。会員の皆様には今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げる次第です。

令和三年度事業の概要

【公益事業1】　奨学金貸与事業

1　令和三年度の貸与について
　貸与者総数　一七名　　貸与金　一、〇〇四万円

2　令和三年度の貸与金返還について
　奨学金返還者　四五名　返還金　一、三二五万円

3　奨学生同士の交流
　会報85号に「奨学生交流の広場」を設け、交流を図った。

4　奨学生ＯＢ等から奨学生への提言
　二名の方から「特別寄稿」をいただいた。

5　令和三年度奨学生の選考
　○新規貸与予定者　六名　　４年度貸与者総数　二二名
　○返還開始予定者　一名　　４年度返還者総数　四〇名
　○奨学金貸与事業の周知活動
　・置賜地区内の高校訪問を実施、ポスター・チラシ配布
　・ホームページで広報活動を実施
　・「広報ながい」に広告・募集記事を掲載
　・山形新聞に奨学生募集について記事を一二月掲載
　・長井市役所デジタルサイネージに募集広告掲載

6　「山形県若者定着奨学金返還支援事業」の積極的な活用
　・長井教育会から６名が採用

【公益事業2】　教育文化事業

1　記念講演会　事情により中止

2　地区公民館教育文化事業への助成
　○豊田コミュニティセンター（十一月）
　内容：川井少年少女獅子踊りライブ配信
　・豊田小学校六年生が伝承活動を行っている川井獅子踊り発表機会が、コロナ禍の中なくなったため、ライブ配信を行い、多くの人に見てもらう機会をつくった。
　○西根コミュニティーセンター（八月）
　内容：夏休み子ども学習会
　・小学生を対象に、夏休みを利用して、宿題や勉強、運動不足解消をめざした活動などを行い、延べ二二一名の参加を得た。
　○伊佐沢コミュニティセンター（八月）
　内容：コミセン寺子屋
　・夏休み中小学生を対象に、学習会・健康教室や聖火ランナーとして走った二人を招いての聖火リレーなど多彩な活動を行った。

3　市内中学校への教育研究充実に向けた支援（研究費の進呈）
　○長井南中学校
　研究主題：他者と協働して、学びを深め、主体的に課題を解決する生徒の育成
　～子どもの学びの姿から考える～
　○長井北中学校
　研究主題：一人一人の確かな学びと豊かな心の育成
　～生徒の実態を踏まえた付けたい力の明確化とふりかえり場面における学習活動の工夫をとおして～

4　市内中学校と高等学校への優秀生徒への長井教育会賞の授与
　（四ページをご覧下さい）

【会員拡大活動】

・長井出身の方々で組織している「ふるさと長井会」のご理解とご協力を得て、多くの方に会員として加入いただきました。
・年間を通して通常会員・特別会員として多くの皆様に、また賛助会員として三団体（「ふるさと長井会」を含む）に入会いただきました。心より感謝申し上げます。
・会員拡大活動にお力添えをいただいた地区委員の皆様、関係者の皆様に御礼申し上げます。

《奨学生の概要》

(1) 出身地別

（単位　人）

	中央	致芳	西根	豊田	伊佐沢	平野	計
ＯＢ	127	38	42	36	18	27	288
在学中	6	5	2	1	1	2	17
計	133	43	44	37	19	29	305

(2) 卒業後の動向

（単位　人）

	教　員	医　師	会社員	公務員	金　融	医　療	団体職員	主　婦	自　営	その他	計
県内	29	3	43	21	5	19	2	1	4	20	147
県外	10	4	69	5	2	16	4	5	0	25	140
計	39	7	112	26	7	35	6	6	4	45	287

(3) 奨学生数の推移

年度	貸与者数	新貸与者数		延べ人数	返還者数
		人数	内訳		
S53	1	1	大学(4年～1)	1	
54	2	1	大学(医大6年～1)	2	
55	5	3	大学(4年～2・3年～1)	5	
56	8	3	大学(4年～2・3年～1)	8	
57	9	2	大学(4年～2)	10	1
58	14	5	大学(4年～3・3年～1) 高校(3年～1)	15	1
59	16	5	大学(医大6年～1)大学(4年～4)	20	4
60	18	5	大学(医大5年～2) 大学(4年～1・3年～2)	25	7
61	18	4	大学(4年～3・3年～1)	29	10
62	18	4	大学(4年～3・3年～1)	33	13
63	18	6	大学(4年～5・3年～1)	39	17
H元	19	4	大学(4年～3) 高校(1)	43	17
2	22	10	大学(5年～1・4年～7・2年～1) 高校(1)	53	21
3	27	10	大学(4年～10)	63	19
4	31	9	大学(4年～6・3年～2) 高校(1)	72	18
5	37	10	大学(4年～9・3年～1)	82	22
6	39	10	大学(4年～6・3年～3) 高専(3年～1)	92	22
7	36	10	大学(4年～8・2年～1) 高校(1)	102	30
8	38	10	大学(4年～6・3年～3・2年～1)	112	31
9	31	4	大学(4年～4)	116	38
10	32	10	大学(4年～9・3年～1)	126	36
11	30	10	大学(4年～7・3年～2・2年～1)	136	33
12	34	10	大学(4年～8・3年～2)	146	29
13	35	8	大学(4年～6) 高専(3年～2)	154	28
14	30	7	大学(4年～5) 短大(2年～1) 高専(2年～1)	161	35
15	30	9	大学(6年～1・4年～5・2年～1・1年～1) 短大(2年～1)	170	35
16	29	9	大学(4年～4・2年～1) 高専(3年～2・2年～1) 高校(1)	179	30
17	30	9	大学(4年～7・3年～1) 高専(2年～1)	188	35
18	32	12	大学(4年～4・3年～1・2年～1) 専門(5) 高校(1)	200	36
19	36	13	大学(4年～5・高看1・3年～1) 短大(2) 専門(4)	213	37
20	43	15	大学(6年～1・4年～5・2年～1) 高看(3年～1) 専門(1) 高校(6)	228	36
21	36	10	大学(4年～6・3年～1・2年～1) 専門(2年～1・1年～1)	238	40
22	34	10	大学院(2年～1) 大学(4年～5・3年～1) 高看(3年～1)短大(2年～1)専門(4年～1)	248	41
23	28	5	大学(4年～4) 短大(2年～1)	253	47
24	25	5	大学院(2年～1) 大学(4年～4)	258	51
25	20	5	大学(4年～5)	263	49
26	19	6	大学(4年～3・2年～1) 短大(2年～1) 専門(3年～1)	269	48
27	21	5	大学(4年～5)	274	44
28	23	5	大学(4年～3・2年～1) 専門(4年～1)	279	39
29	22	5	大学(4年～3・2年～1) 専門(3年～1)	284	41
30	22	5	大学(4年～3) 短大(2年～1) 専門(3年～1)	288	41
R1	18	5	大学院(2年～1・1年～1) 大学(4年～2) 専門(2年～1)	292	45
2	13	4	大学(4年～2) 専門(2)	296	46
3	17	10	大学(7) 短大(1) 専門(2)	306	45

学校紹介

住環境を創造する若者を育てる

山形工科短期大学校
学校長　小幡知之

修学内容

私たちの生活空間である「住環境」を快適なものとし、これを正確に安全に創り出すための知識・技術・技能を修得した建築分野における実践的技術者を育成するのが本学「居住システム系住居環境科」（二年間）の目的であり、学生は建築設計、建築施工、大工技能、木工、インテリアを少人数制（定員一学年二五名）により二年間で集中的に学びます。また、木を使ったものづくりを重視しており、手工具や木工機械を駆使して木造建築や木製家具・木工品の製作技術を必修の実習を通して全員が身に付けます。この他にも建築CADや手描き製図、測量など建築分野に関連した実習重視のカリキュラムで学びます。そして、このような普段の授業を基礎としながら、学生は「計画」「施工」「家具」三分野のいずれかに所属して応用的内容を学び、最終的に卒業制作として総まとめを行い、三月には学外で展示発表を行います。

学生を指導する教授陣は、一級建築士、一級建築大工技能士など、現場に精通した多彩な顔ぶれで、実践的な知識・技術・技能を直接伝授できるところが特徴です。

仕組み

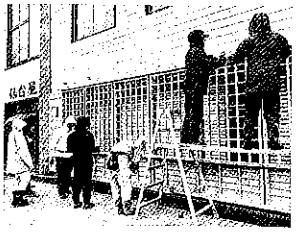
本学は、一般的な大学とは性格が異なる職業能力開発短期大学校（厚生労働省所管）で、山形県内の建設企業等が設立した「職業訓練法人山形工科アカデミー」が県から認定を受けて運営しています。そのため、学生は法人を構成するいずれかの企業に「建築研究生」として入社して社員となって学ぶという就職・進学型となっており、研究生は卒業後、当該企業の正社員として活躍することが期待されています。修学中の二年間は研究生とはいえ社員ですので、給与が支給され、また授業料は当該企業が負担します。

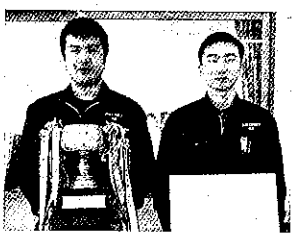
資格取得等

本学を卒業すると、出身高校の課程を問わず二級建築士試験の受験資格が得られ、合格すると実務経験不要で二級建築士に登録できます。在学中は三・二級建築大工技能士、インテリアコーディネーター、二級建築施工管理技士（第一次検定）等にチャレンジでき、このうち、大工技能士とインテリアコーディネーターについては、通常の授業とは別課程の実技講習を行って合格を支援します。

課外活動

山形県職業能力開発協会の主催により、技能向上を目指す県内の若者を対象に「若年技能者技能競技大会」が例年開催されますが、令和三年十月の大会で、「建築大工」部門に参加した本学学生二名が第一位、および敢闘賞を受賞しました。この他、「家具分野」が、交流センターふらりの依頼で、テーブル・スツールをデザインし、地場産材で製作。また、長井市役所新庁舎のホールに、数種類のテーブル・スツール・イスをデザイン・製作。「施工分野」が、蔵王温泉高湯通りに同観光協会からの依頼で、木製格子や灯籠を製作し修景。「計画分野」は、歴史的建造物の調査や地域施設のリノベーション案を提案するなど、学内に留まらない様々な活動を行っています。これらを通し、学生はただ学ぶだけではなく、在学中に得た知識・技術・技能を地域に活かすことで、建築に携わる者として社会に貢献することの重要性を認識し、また、職業人の意識を醸成します。





将来に向けて

本年は開学から二五年となり、卒業生は４００名を越えて建築業界の中堅で活躍する者が増えてきました。このような長年の取り組みが評価され、本学の運営法人が二〇一八年度に山形県知事より、翌一九年度は厚生労働大臣より、「認定職業訓練優良団体」として表彰されました。大変光栄なことだと存じております。

マスコミ等でも近年広く喧伝されている通り、木造建築が再び脚光を浴び、木造の高層建築が現実のものとなってきました。開学以来、木造建築を教育の柱に据えてきた我々として、正に目指していた時代が到来したとの思いを強くしております。一方で、建設現場のICT導入等による技術は驚くほどのスピードで革新しています。我々は〝伝統〟を基盤としながらも、建築業界の発展に貢献しながら、住環境の創造・刷新に真摯に取り組む若者をしっかりと育てていきたいと考えております。今後とも皆様のご支援、ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。